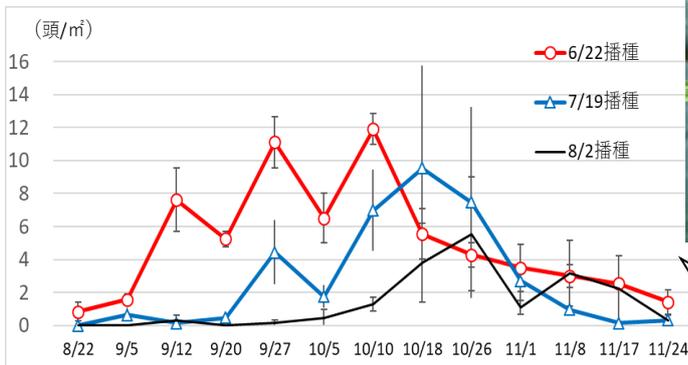


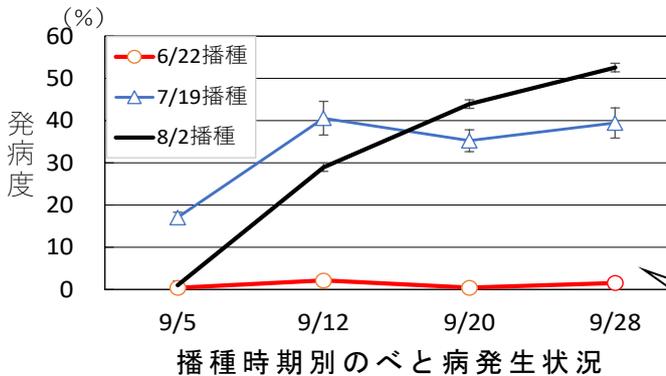
# ダイズの播種期が遅れた場合の病害虫防除

県内のダイズ栽培は6月下旬播種が一般的ですが、近年の気候変動による大雨等で播種作業が滞り、7月中旬以降の播種もみられるようになりました。播種時期が異なると病害虫の発生も変化します。そこで、「里のほほえみ」の播種期を意図的に遅らせ、被害が大きい子実吸汁性カメムシ類とべと病の発生消長を調べるとともに、被害粒の発生を5%以下に抑えるための防除体系について検討しました。その結果、カメムシ類に対する防除回数は、6月下旬播種の4回に対し、7月中旬では2回、8月上旬では1回となりましたが、べと病は同じく0回、3回、3回と逆に増えることがわかりました。



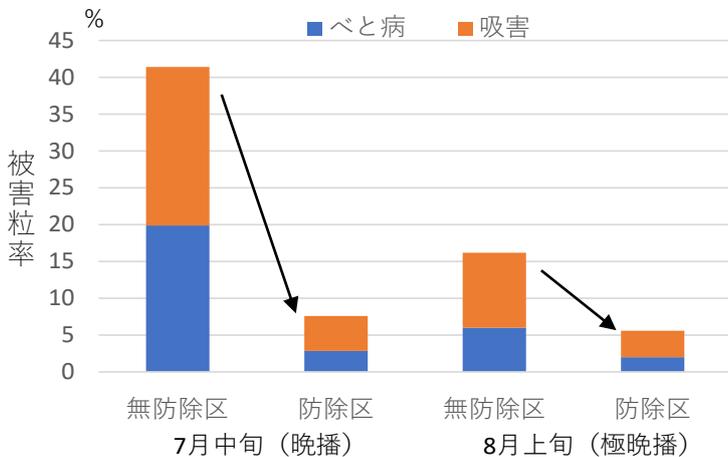
カメムシ幼虫

7月中旬以降播種ではカメムシ類の発生が遅くなり、子実肥大期と重ならないため、被害が少なくなります。



べと病の病斑

7月中旬播種以降ではべと病の発生が多くなり、被害も増加します。



7月中旬播種では、カメムシ類2回、べと病3回。8月上旬播種ではカメムシ類1回、べと病3回の防除を行うことで、被害粒率をそれぞれ5%以下に抑えることができました。

※吸害=カメムシによる被害粒

防除体系の効果

(病害虫研究担当 TEL 048-536-0409)